

目標年度

令和7年度

大崎圏域園芸特産振興戦略プラン

(令和3年度～令和7年度)

令和6年4月 改訂

宮城県北部地方振興事務所

目次

I 大崎圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題	1
2 園芸特産振興の方向性	2
3 重点振興品目	
(1) 県戦略品目	3
(2) 地域戦略品目	4

II 大崎圏域における品目別アクションプラン

1 いちご	6
2 きゅうり	8
3 トマト	10
4 ほうれんそう	12
5 ねぎ類(長ねぎ・青ねぎ)	14
6 ねぎ類(小ねぎ)	16
7 たまねぎ	18
8 キャベツ	20
9 えだまめ	22
10 ばれいしょ(加工・業務用)	24
11 さつまいも	26
12 加工業務用を主とする野菜 (レタス, だいこん, かぼちゃ, にんじん, ごぼう, しそ)	28
13 軟弱野菜類 (せり, こまつな, ゆきな)	30
14 はくさい	32
15 なす	34
16 みずな	36
17 しゅんぎく	38
18 にら	40
19 ブロッコリー	42
20 ピーマン	44
21 えごま	46
22 輪ぎく	48
23 スプレーぎく	50
24 花壇用苗物類	52
25 ばら	54
26 日本なし	56
27 ぶどう	58
28 ブルーベリー	60
29 しいたけ	62

30 えのきたけ	64
31 わさび	66

大崎圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

当管内は、自然環境との共生による水田農業が行われてきた「大崎耕土」を有する穀倉地帯で、水稲・大豆を中心に、肉用牛や酪農などの畜産が盛んに行われてきました。このため、農業産出額(H30)は米238.2億円、畜産238.0億円、園芸59.4億円と米と畜産に特化した生産構造となっています。このような中、大崎圏域園芸特産振興戦略プラン(H28～R2)に基づき、園芸特産の振興を進めてきたところ、ねぎ類(長ねぎ・青ねぎ)、加工用ばれいしょ等の加工・業務用野菜、しいたけなどの品目で生産が拡大したほか、補助事業を活用した施設・機械整備や新規生産者の確保等により生産体制の強化が図られました。

しかしながら、生産者の高齢化や後継者・担い手不足、燃油や生産資材の高騰等の問題は顕在化しており、JA各部会等の生産組織体制の強化に加え、機械化一貫体系やアグリテックの導入による省力化及び高度な環境制御技術の導入による生産性の向上、環境負荷低減の取組等、「宮城県みどりの食料戦略推進ビジョン」も踏まえた持続的な生産体制の構築に向けた取組が求められています。また、食の多様化や新たな生活様式への変化に対応するため、食産業との連携による加工・業務向け野菜への積極的な取組、商品開発や販路開拓など、儲かる園芸特産の実現が必要です。

これらの取組に加え、地産地消や食育の推進を図るため、学校給食など地域への食材供給や、農林産物直売施設向け少量多品目栽培等多様な生産形態を維持し、観光との連携等により、農村地域全体の活性化に資することも必要です。

(野菜)

主要な品目としては、国の指定産地となっている夏秋なす、秋冬ねぎ、秋冬はくさい、ほうれんそうのほか、国産需要の高まりにより生産量が伸びているねぎ類、園芸施設でのこねぎ、みずな等があり、JA各部会を中心に生産振興が図られています。また、農業法人等による大規模化の事例が見られてきたほか、農業法人間連携又は農業法人と個別農業者が連携した生産・販売体制が構築される事例が見られるようになりました。

生産性の更なる向上を図るため、露地では機械化一貫体系の推進やRTK基地局を利用した自動操舵技術等のアグリテック導入、排水対策の励行、施設では高度な環境制御技術の導入を進めるほか、実需者ニーズに対応した加工・業務向け野菜の推進が必要となります。

(花き)

主要な品目としては、ばら、輪ぎく及びスプレーぎくのほか、鉢もの類、花壇用苗もの類、トルコギキョウ、ストック等があり、JA各部会や農業法人等で生産に取り組まれています。販売面では、JA系統出荷、個別市場出荷、農産物直売所など多様化している一方で、単価の低迷や燃油価格の高騰等により、生産量は伸び悩んでいます。また、新たな生活様式の実践等により、需要減少による価格低下が長期的に懸念されます。

このため、ニーズに合った品目・品種の選定や徹底したコスト削減、予約販売率を高めるなど、収益性の高い花き生産を実現する必要があります。

(果樹)

主要な品目としては、美里町小牛田のなしがあり、組織化が図られています。販売面では、各戸直売で対応しており、梨フェアの開催など、組織的な販売活動も行われています。また、育苗ハウスを活用したぶどうや水田転作によるブルーベリーなど特徴的な取組も見られます。

高齢化による担い手不足や老木化により、生産量は減少していることから、新規生産者の確保、省力技術の導入、ニーズに合った品種の選定や販路開拓などが課題となっています。

(特用林産物)

主要な品目としては、えのきたけ、しいたけ等があり、特に、えのきたけは、県内トップの生産量(県生産量の約7割)を誇り、東北の主要生産地となっています。菌床しいたけは、比較的簡易な施設で栽培が始められることから、生産者が徐々に増加しているほか、JGAP認証の取得など、経営改善の取組が見られるようになりました。

生産面では、引き続き安定した収量の確保・品質向上を図っていくほか、販売面では、新たな販路の確保が課題となっています。

[重点振興品目の生産の現状]

区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)
野菜	いちご	4.0	31.5	3.5	野菜	さつまいも	0.3	9.0	0.1
	きゅうり	12.8	497.4	14.0		はくさい	9.9	497.2	2.2
	トマト	23.7	972.9	33.2		なす	24.9	344.6	12.6
	ほうれんそう	28.9	291.7	19.1		みずな	24.6	523.9	21.5
	ねぎ	100.9	1,533.6	40.0		しゅんぎく	9.9	153.0	9.5
	こねぎ	20.9	545.9	44.7		にら	4.0	60.5	3.2
	たまねぎ	12.0	187.3	1.8		ブロッコリー	13.7	21.4	0.6
	キャベツ	17.6	671.6	4.2		ピーマン	0.0	0.0	0.0
	えだまめ	7.0	24.6	1.2		えごま	24.7	10.0	1.0
	だいこん	36.0	393.4	8.5		花き	輪ぎく	4.7	608.0
	かぼちゃ				スプレーぎく		4.3	970.0	6.0
	にんじん				花壇用苗もの類		3.9	1995.0	18.0
	ごぼう				ばら		2.0	876.0	4.1
	レタス				果樹	日本なし	11.6	127.4	4.4
	しそ・大葉	ぶどう	5.6	16.0		1.3			
	こまつな	2.6	30.7	1.5	特用 林産	ブルーベリー	7.0	10.6	1.1
	ゆきな					しいたけ	-	153.7	14.6
	せり					えのきたけ	-	1172.0	34.2
	ばれいしょ					22.5	491.0	2.0	わさび

※ 野菜:「H30農協販売実績」等, 花き:「H30花き産業振興総合調査」, 果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」, 特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」

2 園芸特産振興の方向性

(園芸)

- ・土地利用型農業法人や生産組織への機械化一貫体系及びアグリテック導入等による露地園芸の取組拡大
- ・施設園芸における高度な環境制御技術の導入による生産性の一層の向上
- ・環境負荷低減に向けた化学農薬・化学肥料の低減等の取組拡大
- ・食品関連産業との連携強化による加工・業務向け野菜の更なる生産拡大
- ・企業や個人の新規参入促進及び多様な人材確保に向けた体制整備
- ・JA各部会等の新規生産者の確保・技術継承等による組織体制の強化
- ・各種補助事業を活用した施設・機械整備等による生産体制の強化
- ・関係機関との連携による生産現場に即した品目の選定及び品種・栽培技術の導入・普及による安定生産
- ・直売等多彩な生産・販売形態の支援

(特用林産物)

- ・補助事業を活用した生産施設整備や機械化による生産性の向上
- ・GAPの推進による経営改善と多様な販売ルートの構築
- ・各種補助事業を活用した施設・機械整備等による生産体制の強化
- ・直売等多彩な生産・販売形態の支援

3 重点振興品目 37品目(内訳 野菜27, 花き4, 果樹3, 特用林産3)

(1) 県戦略品目 18品目(内訳 野菜12, 花き3, 果樹2, 特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	栽培技術の高位平準化と品質の向上 栽培技術の高位平準化・育苗管理の徹底による良質苗の安定生産・需要に応じた生産体制の強化
	きゅうり	高品質栽培技術の習得による生産性の向上 生産技術の向上による高品質化・経営規模の拡大と新規栽培者の確保・多様な販売形態に対応した物流等の改善・積極的な消費啓発活動の展開
	トマト	実需者・消費者ニーズに対応した周年安定供給体制の整備 栽培管理技術の向上による高品質の維持・経営規模拡大に向けた新しい担い手の確保・販売力強化による生産量の拡大と契約取引等の対応による価格安定対策・積極的な消費啓発活動の展開
	ほうれんそう	安定生産と産地の維持確保 継続性の高い産地づくり支援・周年供給体制の確立と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	ねぎ類	省力・機械化による規模拡大と新需要への対応強化・産地としての安定生産確保 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・安定生産に向けた体制強化・生産安定技術の向上・加工・業務用への対応強化・流通体制の強化・積極的な消費啓発活動の展開
	たまねぎ	省力・機械化による規模拡大と新需要への対応強化 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・機械化体系の推進による作業効率化・生産技術の向上による収量増加と高品質化・安定生産出荷体制の整備
	キャベツ	加工・業務用の需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・機械化体系技術の確立による作業効率化・生産技術の向上による高品質化・安定生産出荷体制の整備・物流等の改善と有利販売可能な販路の開拓
	えだまめ	栽培技術の向上と作期の分散による生産供給体制整備 水田の有効利用による生産の拡大・機械化体系技術の確立・高品質安定生産技術の確立・安定生産出荷体制の整備
	ばれいしょ (加工・業務用)	加工会社と連携した生産体制の維持 排水対策の実施と基本技術の励行・カルビーポテト(株)と連携した巡回指導の継続と適正品種の選定・契約栽培に基づく安定的な流通販売体制の継続
	さつまいも	水田転作に対応した生産供給体制の整備 水田転作ほ場における排水対策, 生産技術の向上による収量安定及び機械化体系の導入
花き	輪ぎく	多様なニーズに対応できる安定生産体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大・持続性の高い産地づくり支援・気象条件に対応した栽培管理技術の確立・安定生産出荷体制の整備
	スプレーぎく	多様なニーズに対応できる安定生産体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大・省力・低コスト技術の導入・定着・持続性の高い産地づくり支援・安定生産出荷体制の整備

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
花き	花壇用苗もの類	省力・低コスト化による良質生産と経営の安定 用土の適正管理による安定生産・効率的な生産体制の強化・燃油価格高騰対策への取り組み支援・市場動向を的確に把握した予約販売の推進
果樹	日本なし	省力化・低コスト化による生産性向上 省力低コスト等新技術の普及拡大・消費者ニーズに対応した品種等の普及拡大・「北浦梨」ブランドの強化と新規販路の開拓
	ぶどう	販売に向けた生産のための栽培技術向上 消費者に求められる果実生産に向けた技術向上・新規栽培への誘導・地産地消の推進による消費拡大対策
特用林産	しいたけ	菌床しいたけ:安定生産による収益確保 原木しいたけ:安全なきのこを栽培するための栽培管理の徹底 原木きのこ栽培における放射性物質対策作業マニュアルに基づく栽培管理の指導・徹底・GAP導入による生産管理意識の向上・安定生産推進

(2)地域戦略品目 19品目(内訳 野菜15,花き1,果樹1,特用林産2)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	加工・業務用を主とする野菜 (レタス※,だいこん,かぼちゃ,にんじん,こぼろ,しそ)	加工・業務用需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・生産技術の向上による収量向上と高品質化・需要に応じた流通販売体制の整備
	軟弱野菜類 (せり※,こまつな,ゆきな)	新たな需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・生産技術の向上による収量向上と高品質化・需要に応じた流通販売体制の整備
	はくさい	加工・業務用の需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・機械化体系技術の確立による作業効率化・生産技術の向上による収量向上と高品質化・安定生産出荷体制の整備
	なす	多様なニーズに対応できる安定生産供給体制の確立による産地強化 経営規模拡大と新規栽培者の確保による栽培面積の拡大・生産技術の向上による収量向上と高品質化・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	みずな	安定生産及び品質の確保 生産安定技術の確立・経営規模の拡大と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	しゅんぎく	安定生産供給体制の維持確保 生産安定技術の確立・経営規模の拡大と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備
	にら	機械化による栽培面積拡大と安定供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	ブロッコリー	栽培技術の向上と安定出荷体制の確立 栽培技術の向上に向けた技術支援・輪作体系での栽培の導入・推進・積極的な消費啓発活動の展開

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	ピーマン	栽培技術の向上と生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保, 需要に応じた流通販売体制の整備, 生産技術の向上による収量確保及び高品質化
	えごま	安定生産による産地維持 規模拡大及び新規栽培者の確保, 防草技術の向上, 転作田における排水対策などの圃場条件の改善
花き	ばら	養液栽培の生産性向上による収益力強化 効率的かつ安定的な産地づくり・多様な販売チャネルへの対応
果樹	ブルーベリー	土壌条件等の改善を主とした生産性向上 新規販売者の確保・栽培技術の向上と高品質果実生産・地産地消の推進による消費拡大対策
特用林産	えのきたけ	省力・低コスト化による収益力の強化と経営の安定 生産性の向上と低コスト化・産地のブランド化・地産地消推進による消費拡大対策の展開
	わさび	良質な商品の供給とブランド化の推進 生産技術の確立と生産拡大・多様な販売形態による実需者・消費者ニーズへの対応, 食の安全安心の確保

※(2)地域戦略品目に記載されているレタス, せりは県戦略品目

Ⅱ 大崎圏域における品目別アクションプラン

いちご「栽培技術の高位平準化と品質の向上」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	4.0	4.0	4.0	4.0	100%
出荷量 (t)	31.5	32.1	32.6	33.0	105%
産出額 (千万円)	3.5	3.6	3.7	3.8	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・生産者の多くは水稲や野菜などの他の品目を組み合わせた複合経営を行っている。生産者は高齢化しており新規参入は少ない。
- ・「とちおとめ」と「もういっこ」が主力品種となっているが、一部で新品種「にこにこベリー」が導入されている。
- ・複数の生産者が病害虫防除として天敵製剤を利用している。

○流通・販売面の現状

- ・販売は農協系統販売のほか、直売所への出荷が多くなっている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・基本技術徹底による収量と品質の向上
- ・適切な育苗管理の徹底による生産株の安定確保
- ・天敵製剤の放飼タイミングや天敵利用を前提とした化学剤利用の技術向上が必要

3 具体的振興策

- 栽培技術の高位平準化
- 育苗管理の徹底による良質苗の安定生産
- 需要に応じた生産体制の強化

4 主な担い手(部会)等

- JA新みやぎみどりの地区 14名(2法人, 12個人)
- JA古川いちご部会 7名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	栽培技術の高位平準化	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理や病虫害防除の見直しと技術指導 ・土壌分析に基づいた適正施肥と良質な有機物を活用した土づくりの推進 ・現地検討会や栽培研修会の実施 ・新品種の栽培管理に関する技術支援と情報提供 ・天敵を活用した害虫防除に関する技術支援と情報提供
	育苗管理の徹底による良質苗の安定生産	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な育苗管理(肥培管理, 灌水, 温湿度管理, 葉かき, 遮光等)実施に向けた技術指導 ・病虫害の適期防除
流通・販売面	需要に応じた生産体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新品種「にこにこベリー」の包装に使用するロゴの活用 ・市場調査・実需者調査 ・品種, 出荷先ごとの出荷規格の調査・検討
		・
その他		・
		・

きゅうり「高品質栽培技術の習得による生産性の向上」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	12.8	13.0	13.2	13.4	105%
出荷量 (t)	497.4	508.1	515.2	522.3	105%
産出額 (千万円)	14.0	14.6	15.0	15.4	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大崎市古川地区ではトマト後の抑制栽培、無加温のハウス栽培が中心である。
- ・JA新みやぎみどりの地区管内では、施設での促成栽培及び抑制栽培が多く、夏秋栽培や無加温栽培も行われている。
- ・生産者の高齢化が進んでおり、施設整備や栽培技術が必要とされるため、新規作付者の確保は難しい状況にある。
- ・長期連作による土壌病害、塩類集積等の対策が課題となっている。

○流通・販売面の現状

- ・販売はJA系統出荷がその大半を占めており、仙台市場中心に出荷されている。
- ・直売所へ出荷している生産者もみられる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・病害虫対策の確立・定着
- ・新規栽培者の確保
- ・安定生産出荷体制の維持確保
- ・契約取引や業務需要への対応による価格安定対策

3 具体的振興策

- 生産技術の向上による高品質化
- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 多様な販売形態に対応した物流等の改善
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

- JA新みやぎみどりの地区きゅうり部会 29名
- JA古川半促成きゅうり部会 4名
- JA古川無加温きゅうり部会 8名
- JA古川抑制きゅうり部会 11名
- JA加美よつば施設園芸部会 5名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会, 現地検討会の開催による栽培技術の平準化 ・病害虫の早期発見と早期防除の徹底(天敵利用によるハダニ対策手法の確立) ・環境に配慮した栽培技術の確立 ・環境制御技術の普及
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・雨よけハウスを利用した作付け推進, 接木苗・雇用労働力の導入推進 ・各種補助事業・農業制度資金活用の推進
流通・販売面	<ul style="list-style-type: none"> ・規格の簡素化の検討・試行・導入 ・用途別・出荷先別規格の調査・検討 ・包装形態・出荷規格の検討・試行 ・市場調査・実需者調査
	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭販売による消費拡大対策の実施 ・地産地消の取り組みの推進・啓発・実践
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

トマト「実需者・消費者ニーズに対応した周年安定供給体制の整備」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	23.7	25.2	26.1	27.1	114%
出荷量 (t)	972.9	1,098.0	1,181.4	1,264.8	130%
産出額 (千万円)	33.2	37.4	40.3	43.1	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大玉トマトを中心にハウス栽培が行われている。
- ・大崎市鹿島台では糖度にこだわったデリシャストマトの生産を行っており、中玉トマトを栽培体系に組み込んだ通年出荷も行われている。
- ・一部で、CO₂施用機やハウス内の環境計測器の導入が行われている。
- ・令和元年東日本台風の被害により一部の施設で甚大な被害を受けたが、現在は復旧が進んでいる。
- ・JA加美よつば及びJAIいわでやま管内では、食品メーカーとの契約による加工用トマト栽培に取り組んでいる。

○流通・販売面の現状

- ・販売は農協系統販売のほか、近年は直売所への出荷もみられる。
- ・実需との契約取引や農産物の加工品(ジュースなど)の販売が一部行われている。
- ・JA加美よつば及びJAIいわでやまでは、加工用トマトの共同出荷を行っている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・高品質維持に向けた連作による土壌病虫害対策等の栽培技術の向上
- ・生産量の拡大と契約取引等の対応による価格安定対策
- ・新たな担い手の確保

3 具体的振興策

- 栽培管理技術向上による高品質の維持
- 経営規模拡大に向けた新しい担い手の確保
- 販売力強化による生産量の拡大と契約取引等の対応による価格安定対策
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

○JA新みやぎみどりの地区 15名(4法人, 11個人)

○JA古川半促成トマト部会 8名 JA古川抑制トマト部会 3名 JA古川雨よけトマト部会 1名

○JA加美よつば加エトマト生産者 64名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	栽培管理技術の向上による高品質の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・難防除害虫, ウイルス病等の防除の徹底 ・土壌分析に基づいた適正施肥と良質な有機物を活用した土づくりの推進 ・露地加工・業務用トマトの栽培技術確立による収量向上 ・出荷査定会の開催による品種格差の是正化 ・良質堆肥などの利用と安定した資材利用体系の定着 ・高度な環境制御技術等の導入推進 ・現地検討会や栽培研修会の実施
	経営規模拡大に向けた新しい担い手の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の掘り起こし ・接ぎ木苗購入等による作業の効率化 ・各種補助奨励事業・農業制度資金活用
流通・販売面	販売力強化による生産量の拡大と契約取引等への対応による価格安定対策	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた規格の導入試行 ・市場調査・実需者調査 ・契約栽培の維持 ・用途別・出荷先別規格の調査・検討 ・包装形態・出荷規格の検討・試行
	積極的な消費啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所販売による調理法提案による消費拡大対策の実施 ・地産地消の取り組みの推進, 啓発, 実践
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

ほうれんそう「安定生産と産地の維持確保」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	28.9	29.5	29.9	30.3	105%
出荷量 (t)	291.7	304.2	312.5	320.8	110%
産出額 (千万円)	19.1	19.9	20.4	21.0	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大崎市・涌谷町・美里町を区域とする国指定産地であり、色麻町も県内有数の産地である。
主にパイプハウスを活用して栽培している。
- ・作付面積は連作障害や高齢化の影響から横ばいまたは減少傾向であり、一部で施設の遊休化が起きている。
- ・夏期の高温や萎凋病の発生による生育不良対策のため、こまつな、しゅんぎく、みずな等を組み合わせた輪作体系の取組が進んでいる。
- ・萎凋病対策として、耐病性品種を導入した栽培が行われている。

○流通・販売面の現状

- ・令和元年度は東日本台風の被害を受け、JA新みやぎみどりの地区の農協系統販売額は96,931千円となった。
- ・販売は農協系統販売のほか、直売所への出荷もみられる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・遊休施設の有効活用等による新規栽培者の確保
- ・適切な栽培管理(病害虫対策・土づくり・肥培管理等)による安定生産の確保
- ・安定生産出荷体制の維持確保

3 具体的振興策

- 継続性の高い産地づくり支援
- 周年供給体制の確立と新規栽培者の確保
- 需要に応じた流通販売体制の整備
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

○JA新みやぎみどりの地区ほうれん草部会 101名(R1時点)

○JA加美よつばほうれん草部会 87名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	継続性の高い産地づくり支援	<ul style="list-style-type: none"> ・こまつな、しゅんぎく・みずな等他品目との輪作体系栽培の確立 ・塩類集積土壌の改善及び土壌診断に基づく適正施肥 ・土づくりのための良質な有機物施用の励行 ・環境に配慮した栽培技術の確立 ・難防除病害虫（萎凋病、べと病等）対策の確立・定着
	周年供給体制の確立と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・各種補助奨励事業・農業制度資金活用の推進（パイプハウス導入） ・遊休施設活用方法のシステム化（関係機関の連携強化）
流通・販売面	需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた規格の導入試行 ・市場調査・実需者調査 ・包装形態・出荷規格の検討・試行 ・効率的な物流の検討
	積極的な消費者啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・店等販売や直売による消費拡大対策の実践
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

ねぎ類(長ねぎ・青ねぎ)「省力・機械化による規模拡大と新需要への対応強化」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	100.9	105.6	108.8	112.0	111%
出荷量 (t)	1,533.6	1,691.3	1,796.5	1,901.7	124%
産出額 (千万円)	40.0	45.1	48.5	51.9	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・加美町、色麻町が秋冬ねぎの指定産地となっている。
- ・長ねぎは既存生産者の高齢化が進む一方で、農業法人や新規就農者により作付が拡大している。
- ・JA古川管内では、加工・業務用長ねぎの作付面積が増加傾向にある。
- ・JA新みやぎみどりの地区では、加工・業務用野菜として青ねぎの生産を推進している。
- ・収穫・調整作業等に多くの労力を要するが、各JAで計画的な機械導入が進められている。

○流通・販売面の現状

- ・長ねぎは農協系統販売の他、直売所への出荷もみられる。
- ・青ねぎは加工・業務用として販売され、需要が高まっている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・品質や収量の安定化に向けた栽培技術の向上
- ・作業の機械化体系の推進
- ・規模拡大に向けた計画的な安定生産体制の整備
- ・契約取引や業務需要への対応による価格の安定対策

3 具体的振興策

- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 安定生産に向けた体制強化
- 生産安定技術の向上
- 業務・加工用への対応の強化
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

○JA加美よつばねぎ部会 77名

○JA古川ねぎ部会 52名

○JA新みやぎみどりの地区ねぎ部会 25名

○加美町長ねぎ生産者(1法人)

○JA新みやぎみどりの地区 青ねぎ生産者10名(6法人, 1営農組合, 3個人)

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	経営規模の拡大と新規栽培者の確保	・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし
	安定生産に向けた体制強化	・需要に応じた品種選定と作型の検討 ・機械化体系の導入・検討 ・作付体系見直しや栽培管理見直しによる省力化と計画的な収穫出荷
	生産安定技術の向上	・土壌分析に基づいた適正施肥と良質な有機物を活用した土づくりの推進 ・現地検討会, 栽培研修会の実施 ・病害虫防除の徹底 ・暗渠・明渠等の設置による水田排水対策
流通・販売面	加工・業務用への対応強化	・需要に応じた規格の調整, 規格の見直し ・物流効率化の検討・試行
	積極的な消費啓発活動の展開	・直売所販売による調理法提案による消費拡大対策の実施

ねぎ類(こねぎ)「産地としての安定生産強化」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	20.9	22.2	23.0	23.9	114%
出荷量 (t)	545.9	616.9	655.1	726.0	133%
産出額 (千万円)	44.7	50.4	54.2	58.0	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・涌谷町を中心に水田転作による団地化と県補助事業を活用したパイプハウスの導入が行われている。
- ・法人や個人生産者も含めて周年栽培を行っている。
- ・若い生産者も比較的多くみられ、新規作付者への指導や研修等、担い手の育成が行われている。
- ・土づくりや品種の検討など課題解決に向けた活発な部会活動が行われている。
- ・高齢化等により生産者間で施設の賃借を行っているが、産地全体の生産量は横ばいまたは減少傾向である。
- ・近年は梅雨明け後の高温による倒伏など、気象に影響されることで生産量の変動が大きい。

○流通・販売面の現状

- ・平成25年度に共同出荷調整施設（JA新みやぎみどりの地区）を整備し、選別作業及び調整作業（皮剥ぎ）の労力軽減を図っている。
- ・令和元年度は東日本台風の被害や価格の低迷が続き、JA新みやぎみどりの地区の販売額は、338,811千円となった。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・周年栽培に対応する土壌病害対策や土づくり
- ・遊休施設の有効活用と新規生産者の参入促進
- ・需要に対応できる生産出荷体制整備の検討

3 具体的振興策

- 高品質生産技術の確立・定着
- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 流通体制の強化
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

- JA新みやぎ仙台小ねぎ部会 36名(R1時点)
- 涌谷町 1法人

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面 高品質生産技術の確立・定着 経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の見える化のための栽培管理のモデル指標作成 ・適切な病害虫対策の実施 ・良質な有機質資材を活用した土づくりの推進 ・土壌診断による適正施肥と適切な肥培管理の実施 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・各種補助奨励事業・農業制度資金活用による機械導入の推進 ・遊休施設活用方法のシステム化(関係機関の連携強化)
流通・販売面 流通体制の強化 農商工連携の推進 積極的な消費啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた規格の導入試行 ・市場調査・実需者調査 ・包装形態・出荷規格の検討・試行 ・効率的な物流の検討 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・商工や関係機関との連携体制の構築とブランド発信 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・店頭販売による消費拡大対策の実施
その他	

たまねぎ「省力・機械化による規模拡大と新需要への対応強化」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	12.0	12.6	12.9	13.3	111%
出荷量 (t)	187.3	206.5	219.4	232.2	124%
産出額 (千万円)	1.8	2.1	2.2	2.4	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・秋まき栽培(普通栽培)が一般的であるが、収穫期をずらした春まき栽培を一部導入している。
- ・機械化体系が確立しており、JA加美よつばでは、生産機械、乾燥施設を導入し、生産者に貸し出している。
- ・JA新みやぎみどりの地区では、たまねぎの調製機械を2か所で導入している。
- ・連作による土壌病害の発生がみられる。

○流通・販売面の現状

- ・JA加美よつばでは、生食用出荷が多いが、加工・業務用出荷にも取り組んでおり、予冷库や通いコンテナ等の出荷体制整備が進んでいる。
- ・JA新みやぎみどりの地区では、加工・業務用で鉄コンテナ出荷を行っている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・水田転作における収量増加に向けた安定栽培技術の向上
- ・規模拡大に向けた計画的な安定生産体制の整備
- ・栽培期間が短い春まき栽培における球の肥大に向けた対策が必要

3 具体的振興策

- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 機械化体系の推進による作業効率化
- 生産技術の向上による収量増加と高品質化
- 安定生産出荷体制の整備

4 主な担い手(部会)等

- JA加美よつばたまねぎ部会 39名
- JA新みやぎみどりの地区 6名(2法人, 2営農組合, 2個人)

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・水田転作作物としての導入推進 ・既存生産者の規模拡大, 新規栽培者の掘り起こし ・集落営農・生産組織の労働力活用
生産・技術面 機械化体系の推進による作業効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・水田機械の有効利用 ・補助事業を活用した機械整備
生産技術の向上による収量増加と高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析に基づいた適正施肥と良質な有機物を活用した土づくりの推進 ・雑草防除体系の確立 ・育苗管理の見直しと技術支援 ・現地検討会, 研修会, 巡回指導による病虫害適期防除支援 ・湿害・連作障害対策の実施
流通・販売面 安定生産出荷体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・作型, 品種の選定による出荷分散の誘導 ・調製機械や乾燥機の共同利用を考慮した計画的な収穫・集荷 ・県内他産地との情報交換
物流等の改善と有利販売可能な販路の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング等による新規販路開拓支援

キャベツ「加工・業務用の需要に対応した生産供給体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	17.6	18.0	18.2	18.5	105%
出荷量 (t)	671.6	686.0	695.6	705.2	105%
産出額 (千万円)	4.2	4.3	4.5	4.6	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・効率的な機械利用による生産技術の向上が必要である。
- ・水田転作が中心のため、排水対策が必須である。

○流通・販売面の現状

- ・加工・業務用の出荷が中心であり、県内外の業者に契約販売している。
- ・予冷库や通いコンテナ等の出荷体制整備が進んでいる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・生産者の高齢化に対応した作業の機械化・効率化
- ・根こぶ病等土壌病害の回避
- ・新規栽培者の確保

3 具体的振興策

- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 機械化体系技術の確立による作業効率化
- 生産技術の向上による高品質化
- 安定生産出荷体制の整備
- 物流等の改善と有利販売可能な販路の開拓

4 主な担い手(部会)等

- JA加美よつばキャベツ生産者 70名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・水田転作作物としての導入, 規模拡大, 新規栽培者の掘り起こし ・土地の集約化・団地化 ・集落営農・生産組織の労働力活用
	機械化体系技術の確立による作業効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・水田機械の有効利用 ・補助事業を活用した機械整備 ・機械化一貫体系技術の導入・検証
	生産技術の向上による高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培方法, 作型, 品種の検討と栽培管理の徹底 ・湿害・連作障害対策, 輪作体系技術の確立 ・土づくりの推進
流通・販売面	安定生産出荷体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・作型, 品種の選定による出荷分散の誘導 ・県内他産地との情報交換
	物流等の改善と有利販売可能な販路の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング等による新規販路開拓支援

えだまめ「栽培技術の向上と作期の分散による生産供給体制整備」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	7.0	7.3	7.5	7.8	111%
出荷量 (t)	24.6	27.2	28.9	30.6	124%
産出額 (千円)	1.2	1.4	1.5	1.6	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・効率的な機械運用による生産技術の向上・適期収穫が必要である。
- ・水田転作が中心のため、排水対策が必須である。

○流通・販売面の現状

- ・秘伝等の晩生品種を中心に、市場出荷での販売が増加している。
- ・JA新みやぎみどりの地区では加工・業務用の販売に取り組んでいる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・栽培技術の向上による収穫量の増加
- ・収穫・選別・調製作業の効率化
- ・作付品種の組み合わせによる出荷期間の拡大、及び労働力の分散

3 具体的振興策

- 水田の有効利用による生産の拡大
- 機械化体系技術の確立
- 高品質安定生産技術の確立
- 安定生産出荷体制の整備

4 主な担い手(部会)等

- JA古川 11名
- JA新みやぎいわでやま地区 5名
- JA加美よつば 2名
- JA新みやぎみどりの地区 1名

5 具体的取り組み内容

	項目	取り組み内容
生産・技術面	水田の有効利用による生産の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・水田転作作物としての導入, 規模拡大, 新規栽培者の掘り起こし ・土地の集約化・団地化 ・集落営農・生産組織の労働力活用
	機械化体系技術の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水田機械の有効利用 ・県単補助事業の活用による機械整備 ・機械の効率的な運用による適期作業・収穫の徹底
	高品質安定生産技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培方法, 作型, 品種の検討と栽培管理の徹底 ・湿害・連作障害対策, 輪作体系技術の確立 ・適期の病害虫, 雑草防除啓発 ・土づくりの推進
流通・販売面	安定生産出荷体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・作型, 品種の選定による出荷時期分散の誘導 ・生産状況把握による出荷見通し情報の精度向上 ・出荷規格, 資材の絞り込み・統一化の検討

ばれいしょ(加工・業務用)「加工会社と連携した生産体制の維持」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	22.5	23.0	23.5	24.0	107%
出荷量 (t)	491.0	543.0	594.0	658.9	134%
産出額 (千円)	2.0	2.1	2.3	2.6	130%

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・ 協議会方式による圏域を越えた広域的な連携が行われている。
- ・ 品種、栽培方法はカルビーポテト(株)との契約により行われている。
- ・ 機械・施設の導入が図られ、機械化体系が確立している。

○流通・販売面

- ・ カルビーポテト(株)との契約栽培が行われている。
- ・ ポテトチップスの原料用として、固定の単価で出荷している。
- ・ 契約栽培により簡素規格の出荷が可能となっている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・ 収益の確保に向けた、排水などの圃場条件の改善や、適期作業の実施。
- ・ 栽培技術の現地検討と収量増加に向けた品種の検討。

3 具体的振興策

○生産技術の向上による収量向上と高品質化

- ・ 排水対策の実施と基本技術の励行
- ・ カルビーポテト(株)と連携した巡回指導の継続と適正品種の選定
- ・ 契約栽培に基づく安定的な流通販売体制の継続

4 主な担い手(部会)等

○JA新みやぎみどり地区 の8名(2法人, 2営農組合, 3個人)

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	・排水対策の実施と基本技術の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・ ばれいしょ栽培に適した農地の選定と団地化の推進 ・ 排水対策技術の普及 ・ 土壌分析結果に基づいた施肥管理の実施 ・ 適期定植に向けた、種芋の準備
	・カルビーポテト(株)と連携した巡回指導の継続と適正品種の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導と現地検討会等の実施 ・ 品種比較実証圃を活用し、より適正の高い品種の導入推進
流通・販売面	契約栽培に基づく安定的な流通販売体制の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な契約栽培及び出荷に関する支援 ・ カルビーポテト(株)との連携の強化

さつまいも「水田転作に対応した生産供給体制の整備」

1 年次別推進目標

項目	基準年(H30) (A)	R4計画	R5年 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	0.3	2.5	3.0	4.0	1333%
出荷量 (t)	9.0	49.9	64.7	92.5	1028%
産出額 (千万円)	0.1	0.7	1.0	1.6	1600%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大崎市鹿島台の農業法人において令和3年に試験的に0.3ha栽培された。
- ・大崎市鹿島台の基盤整備地区において高収益作物として導入が検討されている。
- ・補助事業の活用により、さつまいもの生産拡大に取り組む法人がいる。(令和4年から 加美町1法人)
- ・九州地域などで発生し大きな被害となっている基腐病は確認されていない。

○流通・販売面の現状

- ・令和3年は収穫後のキュアリングや販売は山元町の農業法人に委託している。(みどりの管内)
- ・キュアリングが不要である色素原料用途の品種の導入を検討している。(みどりの管内)
- ・直売のほか、加工品用(ほしいも)として販売している。(加美町内)

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・水田転作ほ場における土作り及び排水対策
- ・基腐病の発生リスク対策
- ・契約取引や業務需要への対応による価格安定対策
- ・スズメガ被害(加美町内)

3 具体的振興策

- 水田転作ほ場における排水対策の徹底
- 生産技術の向上による収量安定
- 機械化体系の導入
- 契約販売の推進

4 主な担い手(部会)等

- 大崎市鹿島台 1法人
- 加美町 1法人, 1経営体
- JA新みやぎみどりの統括営農センター管内 法人, 個人 概ね5経営体

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	生産技術の向上による安定生産	<ul style="list-style-type: none"> ・補助暗渠施工等による排水対策の推進 ・良苗確保による基腐病発生リスクの軽減 ・機械化体系の導入による省力化
	経営規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の活用による機械導入の推進
流通・販売面	契約取引の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・価格安定に向けた実需者との契約取引の推進
	販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・キュアリングが不要な色素原料用途品種の導入検討
その他	栽培者の確保育成	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用型農業法人への導入推進及び定着支援
その他		

加工・業務用を主とする野菜(だいこん, かぼちゃ, にんじん, ごぼう, レタス, しそ)
「加工・業務用需要に対応した生産供給体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	36.0	38.2	39.6	41.0	114%
出荷量 (t)	393.4	1,679.1	2,536.2	3,393.4	863%
産出額 (千万円)	8.5	59.9	94.2	128.5	1506%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・実需者との契約による加工・業務用野菜の栽培が拡大している。
- ・集落営農組織の新規導入品目として土地利用型野菜の作付面積が拡大している。
- ・レタスでは、育苗ハウス活用や他の品目からの作付け転換などで実需者との契約による加工・業務用野菜の栽培が拡大している。また、法人による大規模レタス水耕栽培が計画されている(R1)。
- ・にんじんでは、集落営農組織の新規導入品目の土地利用型作物として作付されており、実需者との契約やJAへの出荷による加工・業務用野菜の栽培が行われている。

○流通・販売面の現状

- ・漬物、惣菜、加工品等の原料向け出荷が拡大している。
- ・レタスは契約出荷及び市場出荷が行われている。
- ・にんじんは契約出荷、市場出荷のほか直売所での販売もみられている。
- ・一部では予冷库や通いコンテナ等の出荷体制整備が進んでいる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・安定生産技術の確立
- ・機械化体系の推進による安定供給体制の構築
- ・市場出荷と加工・業務用出荷の両方を見据えた販売戦略の構築

3 具体的振興策

- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 生産技術の向上による収量向上と高品質化
- 需要に応じた流通販売体制の整備

4 主な担い手(部会)等

○大崎市古川 しそ2名(1個人, 1法人), レタス1名

○JA加美よつば だいこん3名(2個人, 1営農組織), にんじん3名(2個人, 1営農組織), かぼちゃ20名,
レタス4名(3個人, 1営農組織)

○色麻町 ごぼう1名(1営農組織)

○JA新みやぎみどりの地区 レタス生産者 2名(2法人)

○JA新みやぎみどりの地区 にんじん生産者 5名(4法人, 1営農組合)

○美里町 レタス生産者 1名(1法人)

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・経営規模拡大志向農家・新規栽培者の掘り起こし ・集落営農組織への作付誘導 ・転作田を利用した栽培技術の開発及び団地化の推進 ・排水対策技術の普及 ・各種補助事業の活用による機械化体系の確立 ・出荷, 貯蔵技術の向上
	生産技術の向上による収量向上と高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・用途に応じた品種の検討, 導入 ・加工・業務用栽培技術確立支援(病害虫対策・適切な肥培管理等) ・環境に配慮した栽培技術の確立
流通・販売面	需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・計画栽培・出荷の支援 ・集出荷の共同化支援 ・実需者ニーズの把握

軟弱野菜類(こまつな, ゆきな, せり) 「新たな需要に対応した生産供給体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	2.6	2.6	2.6	2.7	103%
出荷量 (t)	30.7	31.6	32.2	32.8	107%
産出額 (千万円)	1.5	1.6	1.6	1.7	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・こまつなは、みどりの地区において夏場のほうれんそうの代替品目やトマトやナス等の間作として栽培されている。
- ・JA古川, JA加美よつば, JA新みやぎみどりの地区では, 古川青果地方卸売市場の提案により, 令和元年からちぢみこまつなの施設栽培を始めている。
- ・ゆきは全農みやぎの推進品目であり, JA古川ではえだまめの後作で導入が始まっている。
- ・JA新みやぎいわでやま地区では湧き水を活用したせり栽培を行っており, 施設栽培を行う生産者もみられる。
- ・涌谷, 大崎市松山地域を中心に, せりの冬どり(11月下旬~1月上旬収穫)栽培が行われている。
- ・せり鍋での需要が多く, 根の白さを重視した栽培が実施されている。

○流通・販売面の現状

- ・こまつなの販売は農協系統販売が主体で直売での販売も行われている。
- ・ちぢみこまつなは販売単価を決めて古川青果地方卸売市場に出荷しており, 世界農業遺産のロゴを使用した統一パッケージで販売している。
- ・ゆきはポリ袋のバラ詰め出荷であり, 調製は全農で行っている。
- ・せりは農協系統販売の他, 直売や郵送による販売が行われている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・適切な栽培管理による安定生産の確保と品質の向上
- ・新規栽培者の確保
- ・流通販売体制の安定化

3 具体的振興策

- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 生産技術の向上による収量向上と高品質化
- 需要に応じた流通販売体制の整備

4 主な担い手(部会)等

○JA古川 こまつな 20名 ゆきな 2名

○JA加美よつば こまつな 6名

○JA新みやぎいわでやま地区 せり 3名(1法人, 2個人)

○JA新みやぎみどりの地区 涌谷営農センターせり部会 3名 松山 2名

○JA新みやぎみどりの地区 こまつな生産者 33名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・経営規模拡大志向農家・新規栽培者の掘り起こし ・各種補助事業の活用による機械・施設の導入
	生産技術の向上による収量向上と高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理や病虫害防除の見直しと技術指導 ・土壌分析に基づいた適正施肥と良質な有機物を活用した土づくりの推進 ・せりの品質向上(根の白さ等)に向けた、ほ場環境の整備に関する支援 ・現地検討会や栽培研修会の実施
流通・販売面	需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・流通販売状況調査 ・市場調査・実需者調査

はくさい「加工・業務用に需要に対応した生産供給体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	9.9	10.0	10.1	10.2	103%
出荷量 (t)	497.2	512.1	522.0	532.0	107%
産出額 (千万円)	2.2	2.3	2.4	2.5	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・加美郡は秋冬はくさいの指定産地となっている。
- ・効率的な機械利用による生産技術の向上が必要である。
- ・水田転作が中心のため、排水対策が必須である。

○流通・販売面の現状

- ・地元加工業者向け出荷が中心であり、流通コストの低減や生産者の収入安定につながっている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・栽培技術の向上による収穫量の増加
- ・選別・調整作業の効率化
- ・気象条件に対応した品種の選定

3 具体的振興策

○経営規模の拡大と新規栽培者の確保

○機械化体系技術の確立による作業効率化

○生産技術の向上による収量向上と高品質化

○安定生産出荷体制の整備

4 主な担い手(部会)等

○JA加美よつばはくさい生産者 36名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・水田転作作物としての導入, 規模拡大, 新規栽培者の掘り起こし ・土地の集約化・団地化 ・集落営農・生産組織の労働力活用
生産・技術面 機械化体系技術の確立による作業効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・水田機械の有効利用 ・県単補助事業を活用した機械整備 ・機械化一貫体系技術の導入・検証
生産技術の向上による収量向上と高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培方法, 作型, 品種の検討と栽培管理の徹底 ・湿害・連作障害対策, 輪作体系技術の確立 ・土づくりの推進
流通・販売面 安定生産出荷体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・作型, 品種の選定による出荷分散の誘導 ・県内他産地との情報交換

なす「多様なニーズに対応できる安定生産供給体制の確立による産地強化」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	24.9	26.1	26.8	27.6	111%
出荷量 (t)	344.6	380.0	403.7	427.3	124%
産出額 (千万円)	12.6	14.2	15.3	16.4	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大崎市は夏秋なすの指定産地になっている。
- ・生産者の高齢化等により作付面積が減少傾向にある。
- ・なす作業のうち受粉、整枝作業の占める割合が大きく、省力化や雇用労働力の活用が必要である。
- ・連作により塩類集積や土壌病害の発生が見られ、収量が激減するほ場がある。
- ・一部の生産者はハウス内の環境測定やJGAP認証取得に取り組んでいる。
- ・JA古川なす部会はエコファーマーを取得し、天敵利用等により環境に配慮した生産を行っている。
- ・JA新みやぎいわでやま管内では、仙台長なす原料向けの生産に取り組んでいる。

○流通・販売面の現状

- ・仙台市場を中心に出荷されているが、近年は直売所での販売が増加している。
- ・規格外部分も含め、加工・業務用の契約取引が増加傾向にある。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・新規栽培者の確保
- ・連作障害回避対策及び環境に配慮した栽培技術の向上
- ・安定生産出荷体制の維持確保
- ・契約取引や業務需要への対応による価格安定対策

3 具体的振興策

- 経営規模拡大と新規栽培者の確保による栽培面積の拡大
- 生産技術の向上による収量向上と高品質化
- 需要に応じた流通販売体制の整備
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

○JA古川なす部会 49名

○JA新みやぎいわでやま地区 生産者 21名

○JA新みやぎみどりの地区 生産者 5名

○大崎市古川 1法人

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	経営規模拡大と新規栽培者の確保による栽培面積の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・関係機関連携による栽培技術支援体制の整備 ・転作田を利用した露地栽培への誘導 ・各種補助奨励事業・農業制度資金活用の推進
	生産技術の向上による収量向上と高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析に基づく適正施肥の推進 ・抵抗性台木等を活用した土壌病害防除技術の確立 ・環境測定によるハウス管理技術の改善 ・新品種導入の検討
流通・販売面	需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・用途別・出荷先別規格の調査・検討 ・新出荷規格の検討・試行 ・加工用契約栽培の推進 ・市場調査・実需者調査 ・包装形態・出荷規格の検討・試行
	積極的な消費啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・直売や店頭販売による消費拡大対策の実施

みずな「安定生産及び品質の確保」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	24.6	25.1	25.5	25.8	105%
出荷量 (t)	523.9	546.4	561.4	576.3	110%
産出額 (千万円)	21.5	22.4	23.0	23.6	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大崎市(旧鹿島台町)や美里町を中心に作付されており、ほうれんそうやしゅんぎく等他の葉菜類との輪作や、果菜類の後作として作付が行われている。また、法人による周年栽培も行われている。
- ・調整作業にかかる労力が大きく、省力化が必要である。

○流通・販売面の現状

- ・令和元年度JA新みやぎみどりの地区の販売額は、東日本台風の被害により140,801千円となった。
- ・以前は高値で取引されていたが、需要の変化により単価が低迷している。
- ・仙台市場を中心に東北、京浜市場へ出荷されている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・生産安定技術の確立・定着(病虫害対策・良質な有機物を施用した土づくり)
- ・資材の高騰、販売単価の低下や連作障害による減収等で法人の栽培面積が減少している。
- ・安定生産出荷体制の維持確保
- ・市場流通では価格の変動が避けられないため、契約取引や業務需要への対応による価格安定対策

3 具体的振興策

- 生産安定技術の確立
- 経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- 需要に応じた流通販売体制の整備
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

- JA新みやぎみどりの地区みず菜部会 51名(R1時点)

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	生産安定技術の確立・定着	<ul style="list-style-type: none"> ・安定生産のための栽培管理技術の定着（病害虫対策，有機物施用の土づくり） ・土壌分析結果に基づく適正施肥と適切な肥培管理の実施 ・栽培講習会，現地検討会の開催
	経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗ハウス，空きハウスへの作付け推進 ・遊休施設活用方法のシステム化（関係機関の連携強化） ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・各種補助奨励事業・農業制度資金活用の推進（パイプハウス導入）
流通・販売面	需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査・実需者調査 ・生産者予冷库の導入推進 ・流通時の鮮度保持対策の検討 ・出荷規格の周知徹底 ・用途別・出荷先別規格の調査・検討 ・包装形態・出荷規格の検討・試行
	積極的な消費啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・直売や店頭販売による消費拡大対策の実施
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

しゅんぎく「安定生産供給体制の維持確保」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	9.9	10.5	10.9	11.3	114%
出荷量 (t)	153.0	172.7	185.8	199.0	130%
産出額 (千万円)	9.5	10.8	11.6	12.4	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・JA古川及びJA新みやぎみどりの地区の管内を中心に栽培が行われている。
- ・JA新みやぎみどりの地区管内では、ほうれんそうやみずな等の葉菜類との輪作が行われている。
- ・JA古川管内では、なすの後作としての作付体系が確立している。
- ・作りやすい品目であるが、生産者個々の技術格差により、品質・収量が安定していない。
- ・登録農薬が少ないため、病害虫の防除に苦慮している。

○流通・販売面の現状

- ・仙台市場を中心に東北市場へ出荷されている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・栽培技術の向上及び環境に配慮した栽培技術の向上
- ・安定生産出荷体制の維持確保

3 具体的振興策

○生産安定技術の確立

○経営規模の拡大と新規栽培者の確保

○需要に応じた流通販売体制の整備

4 主な担い手(部会)等

○JA新みやぎみどりの地区春菊部会 92名

○JA古川春菊部会 69名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産安定技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・現地検討会の開催 ・作型にあった適品種の選定 ・出荷査定会の開催による出荷規格の統一 ・良質堆肥を活用した土づくりの推進 ・土壌分析に基づく適正施肥
生産・技術面 ・経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・水稻育苗ハウス等を利用した作付けの推進 ・後作としての作付け推進による施設の高度利用 ・新規栽培者・志向農業者の掘り起こし(高齢者, 女性への栽培啓発) ・各種補助事業・農業制度資金活用の推進
流通・販売面 需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査・需要者調査 ・効率的な物流の検討・試行
その他	

にら「機械化による栽培面積拡大と安定供給体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	4.0	4.2	4.3	4.4	110%
出荷量 (t)	60.5	63.1	64.8	66.6	110%
産出額 (千万円)	3.2	3.4	3.5	3.6	110%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・JA古川及びJA新みやぎみどりの地区管内を中心に作付されている。
- ・栽培者の高齢化、後継者不足が進んでいる。
- ・生産者個々の技術格差が大きく、品質・収量が安定していない。
- ・適用がある除草剤が少ないため、除草作業に労力が必要となっている。

○流通・販売面の現状

- ・仙台市場を中心に東北市場へ出荷されている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・栽培技術の向上及び環境に配慮した栽培技術の向上
- ・安定生産出荷体制の維持確保

3 具体的振興策

○経営規模の拡大と新規栽培者の確保

○需要に応じた流通販売体制の整備

○積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

○JA古川にら部会 8名

○JA新みやぎ小牛田営農センターにら部会 9名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・関係機関連携による栽培技術支援体制の整備 ・転作田を利用した露地栽培の普及啓発
流通・販売面	需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査・実需者調査 ・流通・販売状況調査 ・出荷規格の厳守, 鮮度保持
	積極的な消費啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・直売や店頭販売等による消費拡大対策の実施

ブロッコリー「栽培技術の向上と安定出荷体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	13.7	13.7	13.7	13.7	100%
出荷量 (t)	21.4	23.6	25.0	26.5	124%
産出額 (千万円)	0.6	0.6	0.7	0.7	130%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・大崎市田尻を中心に春まき初夏どりと夏まき年内どりの栽培が行われており、主にそらまめなどの他品目と組み合わせた輪作体系を取り入れている。
- ・既存生産者の高齢化が進んでいる一方で、新規での作付も行われている。
- ・「おはよう」や「グランドーム」などが主力品種。

○流通・販売面の現状

- ・販売は農協系統販売のほか、直売所への出荷もみられる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・収量増と高品質生産に向けた連作障害対策や湿害対策等の栽培技術の向上
- ・輪作体系での作付の推進

3 具体的振興策

- 栽培技術の向上に向けた技術支援
- 輪作体系での栽培の導入・推進
- 積極的な消費啓発活動の展開

4 主な担い手(部会)等

- JA新みやぎみどりの地区 21名
- JA古川 9名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	栽培技術の向上に向けた技術支援	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策や堆肥等の施用による土壌改良の励行 ・連作障害(根こぶ病を含む)対策の検討・試行 ・栽培管理に関する技術支援と情報提供 ・土壌分析に基づいた適正施肥と良質な有機物を活用した土づくりの推進 ・現地巡回指導による病害虫の適期防除支援と防除体系の見直し ・作型に合った品種の検討・試行
	輪作体系での栽培の導入・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・他品目との輪作体系の確立
流通・販売面	積極的な消費啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭販売等による消費拡大対策の実施 ・市場調査・実需者調査
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
		<ul style="list-style-type: none"> ・
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

ピーマン「栽培技術の向上と生産供給体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	基準年(H30) (A)	R5計画	R5年 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	0.0	0.5	0.5	1.3	-
出荷量 (t)	0.0	17.7	17.7	45.7	-
産出額 (千万円)	0.0	0.5	0.5	1.3	-

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・全農みやぎの推進品目であり、県内産ピーマンは生産量も少ないことから、JA古川では令和4年度から試験的に栽培を行っている。
- ・軽量で、ダンボールにバラ詰め出荷のため、調製作業が比較的容易であることから、高齢者や新規生産者を中心に推進していく計画である。
- ・石巻青果出荷規格であるL玉率が低い状況である。

○流通・販売面の現状

- ・石巻市場中心の出荷及び管内直売所へ出荷している。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・新規栽培者の確保
- ・栽培技術の向上
- ・安定生産の確保及び品質の向上
- ・L玉率の向上
- ・栽培マニュアルの作成, 技術定着
- ・生産供給体制の維持確保

3 具体的振興策

- ・経営規模の拡大と、新規栽培者の確保
- ・需要に応じた流通販売体制の整備
- ・生産技術の向上による収量確保及び高品質化

4 主な担い手（部会）等

- ・JA古川管内生産者 令和4年産は9名
- ・JA新みやぎいわでやま地区 12名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面 経営規模の拡大と新規栽培者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・規模拡大、新規栽培者の掘り起こし ・水田の転作作物として誘導 ・水稻育苗後の空きハウス活用推進 ・各種補助事業の活用
生産・技術面 生産技術の向上による収量確保及び高品質化	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理に関する技術支援と情報提供 ・土壌診断に基づいた適正施肥と土づくりの推進 ・現地巡回指導による生育診断と適期防除の励行支援
流通・販売面 需要に応じた流通販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市場、実需との意見交換 ・適期収穫による品質の向上と収量の確保 ・市場調査、実需者調査 ・出荷規格の統一及び周知徹底
その他	

えごま「安定生産による産地維持」

1 年次別推進目標

項目	基準年(H30) (A)	R5計画	R5年 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	24.7	27.0	27.0	30.0	121%
出荷量 (t)	10.0	10.9	10.9	12.1	121%
産出額 (千万円)	0.95	1.03	1.03	1.15	121%

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・JA加美よつば管内の色麻町(49名)を中心に栽培が行われている
- ・えごまの産地として日本でも有数の作付け面積を誇る
- ・無農薬栽培により他産地との差別化を図っている

○流通・販売面の現状

- ・全量を色麻町産業開発公社が買い付け、加工・販売を行っている

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・無農薬栽培のため、雑草が繁茂しやすく除草作業の負担が大きい
- ・転作田における排水対策など圃場条件の改善
- ・栽培者の高齢化

3 具体的振興策

- ・規模拡大及び新規栽培者の確保
- ・防草技術の向上
- ・転作田における排水対策などの圃場条件の改善

4 主な担い手(部会)等

- ・色麻町えごま栽培推進協議会(会員62名)

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	栽培技術の高位平準化	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会を設け、会員へ種の配布や情報提供等の支援 ・えごま作付に関する講習(令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
	生産拡大のための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・団地加算等の町からの補助金 ・主にJA加美よつば農協共同組合を通し、株式会社産業開発公社出荷した農家への補助
流通・販売面	需要拡大のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁への出張販売や町内の温泉施設・直売所における加工品PR
その他		

輪ぎく「多様なニーズに対応できる安定生産体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H130) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	4.7	4.9	5.0	5.1	109%
出荷量 (千本)	608.0	634.3	651.9	669.4	110%
産出額 (千万円)	4.9	5.2	5.3	5.4	110%

※出典「花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・生産者の高齢化に伴い、作付面積は減少傾向にある。
- ・連作による塩基バランスの崩れや土壌病害の発生が見られ、収量が減少するほ場がある。
- ・近年は、開花期の高温により開花遅延が多く見られ、需要期に出荷できない生産者も見られる。

○流通・販売面の現状

- ・仙台市場を中心に出荷しているが、近年は直売所での販売が増加している。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・新規栽培者の確保 ・連作障害回避 ・気象条件に対応した栽培管理技術の確立

3 具体的振興策

○経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大

○持続性の高い産地づくり支援

○気象条件に対応した栽培管理技術の確立

○安定生産出荷体制の整備

4 主な担い手(部会)等

- 大崎市 5名 涌谷町 2名 美里町 1名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面	経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大 ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・各種補助事業・農業制度資金活用の推進
	持続性の高い産地づくり支援 ・連作障害回避に向けた栽培管理の見直し, 病害虫防除の徹底
	気象条件に対応した栽培管理技術の確立 ・需要期に合わせた開花調整技術の確立 ・ ・ ・
流通・販売面	安定生産出荷体制の整備 ・作型, 品種の選定による出荷分散の誘導 ・用途に応じた品種の導入, 栽培技術の導入
	・ ・ ・
その他	・ ・
	・ ・

スプレーぎく「多様なニーズに対応できる安定生産体制の確立」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	4.3	4.5	4.7	4.8	111%
出荷量 (千本)	970.0	1,011.6	1,039.3	1,067.0	110%
産出額 (千万円)	6.0	6.3	6.5	6.6	110%

※出典「花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・生産者の高齢化に伴い、作付面積は減少傾向にあるが、一部の生産者では後継者が確保されている。
- ・若い後継者の中には養液土耕栽培や赤色LED導入等省力・低コスト技術に取り組む者もいる。
- ・輪ぎくと異なり、挿し木を購入して育苗する生産者が多く、親株管理作業が省力化されている。
- ・栽培年数が長いほ場で塩基バランスの崩れが見られる他、病害虫による生産性の低下が見られる。

○流通・販売面の現状

- ・仙台市場を中心に出荷しているが、直売所向け出荷も年々増加している。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・経営規模の拡大と新規栽培者の確保
- ・省力・低コスト技術の導入・定着
- ・持続性の高い産地づくり
- ・安定生産出荷体制の整備

3 具体的振興策

○経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大

○省力・低コスト技術の導入・定着

○持続性の高い産地づくり支援

○安定生産出荷体制の整備

4 主な担い手(部会)等

- 美里町 3名 大崎市 7名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者・規模拡大志向農業者の掘り起こし ・各種補助事業・農業制度資金活用の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・試験研究機関と連携した新技術の実証, 導入・定着支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・連作障害回避に向けた栽培管理の見直し, 病害虫防除の徹底
流通・販売面	<ul style="list-style-type: none"> ・作型, 品種の選定による出荷分散の誘導 ・用途に応じた品種の導入, 栽培技術の導入
	<ul style="list-style-type: none"> ・
	<ul style="list-style-type: none"> ・
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
	<ul style="list-style-type: none"> ・

花壇用苗物「省力・低コスト化による良質生産と経営の安定」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	3.9	3.9	3.9	4.0	103%
出荷量 (千鉢)	1,995.0	2,000.0	2,100.0	2,194.5	110%
産出額 (千万円)	18.0	18.5	19.0	19.8	110%

※出典「花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・ほぼ全量が施設で周年栽培されている。需要に対応し春期と秋期の出荷量が多い。
- ・家族経営の生産者が主流だが、近年は法人経営体が企業的な経営を行う事例も見られる。

○流通・販売面の現状

- ・販売先は(出荷先)は花き市場が多かったが、ホームセンターなどとの契約取引や直売所での販売が増加している。
- ・新たな販売方法として、庭先に直売所設置し利益の確保とブランド確立に取り組む事例もある。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・花壇用苗もの類の多くは、ホームセンター等で低価格等で販売されるため、生産者側では価格競争が厳しく、生産者の利益率が低くなっている。
- ・近年の重油価格高騰により冬期の暖房コストが増大し利益が圧迫されている。

3 具体的振興策

○用土の適正管理による安定生産

○効率的な生産体制の強化

○燃油価格高騰対策への取り組み支援

○市場動向を的確に把握した予約販売の推進

4 主な担い手(部会)等

○大崎市 12名 加美町 19名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	用土の適正管理	・土壌診断の実施等
	効率的な生産体制	・省力・低コスト栽培技術支援 ・補助事業や農業制度資金等を活用した施設・機械の導入支援
	燃油価格高騰対策への取組支援	・省エネルギー生産管理技術等支援
流通・販売面	市場動向を的確に把握した予約販売の推進	・市場の動向やニーズ等の情報提供 ・ ・
		・ ・
その他		・ ・

ばら「養液栽培の生産性向上による収益力強化」

1 年次別推進目標

項目	現状(R1) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	2.0	2.0	2.0	2.0	100%
出荷量 (千本)	876.0	900.0	930.0	961.8	110%
産出額 (千万円)	4.1	4.1	4.3	4.6	110%

※出典「花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・作付面積，農家数は減少傾向である。
- ・夏秋期に生産量が増えるが，品質，価格等不安定である。
- ・切り花単価の低迷と資材費・燃料費の値上がりで，収益性が低くなっている。

○流通・販売面の現状

- ・仙台市場を中心に出荷されている。
- ・出荷形態は，バケツ輸送となっている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・病害虫などの発生による生産性の低下が問題となっている。
- ・施設を設置してから年数が経過し，被覆資材の張り替えや施設の補修等が必要となっている。

3 具体的振興策

○効率的かつ安定的なばら産地づくり

○多様な販売チャネルへの対応

4 主な担い手(部会)等

○大崎市1名 加美町2名 美里町3名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	効率的かつ安定的なばら産地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・養液管理の適正化による生産性向上 ・環境制御装置等の導入による生産性及び品質の向上 ・補助事業・農業制度資金を活用した施設の導入
		・
流通・販売面	多様な販売チャネルへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・契約販売等販売チャネルへの対応 ・直売所等の活用, 地場消費の拡大
		・
		・
その他		・
		・

日本なし「省力化・低コスト化による生産性向上」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	11.6	11.6	11.3	11.0	95%
出荷量 (t)	127.4	127.0	123.5	119.0	93%
産出額 (千万円)	4.4	5.2	5.1	4.9	112%

※出典「特産果樹生産動向調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・美里町(旧小牛田町北浦地区)が主な産地であり、栽培面積は約12ha(平成30年産)である。
- ・生産者の高齢化、後継者不足が問題となっており、栽培面積は年々微減の傾向にある。
- ・JAの部会を中心に、栽培技術や販売について情報共有が行われている。
- ・ジョイント栽培に取り組んでいる生産者が数名いる。
- ・生産者十数名で「北浦梨ブランド化研究会」を設立し、販売会の実施など、北浦梨のブランド化に取り組んでいる。
- ・近年の気候変動の影響に伴って霜害の危険性が高まっているが、省力的な霜害対策がなく、対応に苦慮している。
- ・ナシ黒星病やハダニ類といった重要病害虫の被害が常態化しており、収穫量や果実品質に影響を及ぼしている。
- ・薬剤感受性低下が疑われる事例がみられ、重要病害虫の防除対策に影響を及ぼしている。
- ・他作物に比べてせん定などの高度な管理作業が多く、機械化等は困難であることから、省力化が難しい。
- ・後継者不足のため、老木の改植や新品种の導入などに投資する意欲は薄い。

○流通・販売面の現状

- ・街道沿いや直売所、自宅の庭先での直売や贈答販売の形態を取っている生産者が多い。一部系統出荷が行われている。
- ・価格の変動は少ないことから、生産量、品質が安定していれば経営面でも安定した品目となっている。
- ・直販・贈答等による従来からの顧客保有により、販売先に苦慮している生産者は少ない。
- ・「美里町梨フェア」を活用して、圏域内外に北浦梨ブランドをPRしている。
- ・美里町内の社会福祉法人に果実ピューレ原料を供給し、同法人が「なしピューレ」として販売している。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・経営の効率化のため、省力、低コスト技術の開発が急務である。
- ・技術レベルの低下を抑止し、品質の高い果実の生産を振興する必要がある。
- ・地域にあった品種の更新、老木の改植、栽培手法の工夫等、普及を図る必要がある。
- ・なし単作で霜害、台風などの被害に遭う危険が高いため、危険分散のため他の品目導入を図る必要がある。
- ・様々なイベントを活用して販路を広げ、ブランド力を強化していく必要がある。

3 具体的振興策

- 省力低コスト等新技術の普及拡大
- 消費者ニーズに対応した品種等の普及拡大
- 「北浦梨」ブランドの強化と新規販路の開拓

4 主な担い手(部会)等

○JAみどりの北浦梨部会 41名

○大崎市 3名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	省力低コスト等新技術の普及拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・技術開発(農園研)(開発され次第普及) ・省力, 低コスト技術の情報提供・普及推進(ジョイント栽培)
	消費者ニーズに対応した品種等の普及拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・品種育成(農園研)(育成され次第普及) ・消費者ニーズ, 地域の実情にあった品種導入の提案, 技術支援 ・品種構成の検討 ・複合品目の導入支援
流通・販売面	「北浦梨」ブランドの強化と新規販路の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓支援
その他		

ぶどう「販売に向けた生産のための栽培技術向上」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	5.6	5.8	6.1	6.2	111%
出荷量 (t)	16.0	17.1	18.1	18.4	115%
産出額 (千万円)	1.3	1.4	1.5	1.5	115%

※出典「特産果樹等生産動態調査」(現状数値)

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・主な産地は大崎市(旧古川市)であり、その他の周辺地域でも規模は小さいが広がりを見せている。
- ・水稻育苗ハウスを利用した小規模(数本程度)の栽培者数が多いが、複数棟のハウス栽培者もいる。
- ・直売所出荷用に栽培している人も多いが、着色や糖度不足の販売品も見られる。
- ・販売を目指して導入したものの、好まれる品種の移行や栽培管理が難しくなって出荷されていないものも多い。

○流通・販売面の現状

- ・自園や農産物直売所での販売が多いが、一部は贈答用としても購入されている。
- ・直売所の品揃えとしての要望が高く、系統販売への期待もある。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・直売所に出荷される量や品種及び品質等が充足されていない状況にある。
- ・栽培研修会等への関心は高いが、販売への反映が少ない。

3 具体的振興策

○消費者に求められる果実生産に向けた技術向上

○新規栽培への誘導

○地産地消の推進による消費拡大対策

4 主な担い手(部会)等

○大崎市15名 色麻町3名 加美町2名 美里町5名

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面 栽培技術の向上による高品質果実生産 新規販売者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者の求める品種の導入と販売形態に合わせた栽培，管理技術習得支援 ・ 栽培管理改善に向けた新技術等の導入支援 ・ 既存の水稲育苗ハウスや遊休地を利用した導入啓発，販売に向けた技術習得支援
流通・販売面 地産地消の推進による消費拡大対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売実績情報，マーケティング調査結果情報提供 ・ 消費者の求める商品情報をつかむための積極的な交流支援
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

ブルーベリー 「土壌条件等の改善を主とした生産性向上」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	7.0	7.0	6.9	6.8	97%
出荷量 (t)	10.6	10.6	10.9	10.7	101%
産出額 (千万円)	1.1	1.1	1.2	1.2	113%

※出典「特産果樹等生産動態調査」(現状数値)

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・管内では大崎市（旧鳴子町や旧田尻町）が主な産地であり、その他の周辺地域でも規模は小さいが広がりを見せている。
- ・植え付け時の土壌改良不足や植え付け後の土壌pHの改良が実施されていない園地が見受けられる。
- ・水田転作作物として導入される事例が見られるが、排水不良等で生育が良くない園地が見受けられる。
- ・誰でも簡単に栽培できる作物として紹介されていることから、栽培が粗放になりがちで樹形がみだれがちである。
- ・小面積の導入でも販売の意向を持つ栽培者もあり、それに対応した技術支援が必要である。
- ・品種については消費者ニーズの高い大粒種への更新が求められている。
- ・鳥害被害対策に苦慮している。

○流通・販売面の現状

- ・一部系統販売により出荷されているが、摘み取り園や農産物直売所での販売が多い。
- ・収穫時期が集中し日持ちもしにくいいため、加工業者との契約や加工委託などが増加している。
- ・直売所出荷用としてジャム等の加工品を行っている生産者もいる。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・栽培環境の改善および栽培技術の向上による生産（販売）量の増加が必要である。
- ・若手農業者や新規栽培開始事例が多いが、流通販売方法に検討を要する。

3 具体的振興策

○新規販売者の確保

○栽培技術の向上と高品質果実生産

○地産地消の推進による消費拡大対策

4 主な担い手(部会)等

○田尻ブルーベリー生産組合 15名

鳴子ブルーベリー生産者(つみ取り園) 7名

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	新規販売者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな部門としての導入啓発, 新規栽培者の掘り起こし ・すでに栽培している人の販売に向けた誘導
	栽培技術の向上と高品質果実生産	<ul style="list-style-type: none"> ・せん定, 土壌管理等の栽培技術指導 ・大粒種への更新啓発 ・糖度不足や障害果粒の入らない果房作り啓発
流通・販売面	地産地消の推進による消費拡大対策	<ul style="list-style-type: none"> ・消費拡大策の検討, 実践 ・販売に向けた栽培誘導
		<ul style="list-style-type: none"> ・
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

しいたけ「栽培管理の徹底及び安定生産による収益確保」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
生産量(原木) (t)	24.3	38.4	47.7	57.1	235%
生産量(菌床) (t)	129.0	151.1	165.8	180.5	140%
産出額(原木+菌床) (千万円)	14.5	17.8	20.0	22.2	154%
生産量(乾) (t)	0.4	0.8	1.1	1.4	314%
産出額(乾) (千万円)	0.2	0.3	0.5	0.6	320%

※出典「H30特用林産物生産統計調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

(原木しいたけ)

- ・露地栽培の出荷制限解除が進み、生産量は微増している。
- ・生産者の高齢化、後継者不足や、東京電力福島第一原子力発電事故による放射性物質汚染によって県内産原木の使用が困難なことから、生産意欲が低下し、生産者は減少している。

(菌床しいたけ)

- ・補助事業による生産資材の導入支援等により、安定した生産がなされ、生産量は増加傾向にある。
- ・生産管理面での意識向上により、管内のきのこ生産者が初めてJGAP認証を取得した。
- ・菌床を購入しビニールハウス等比較的簡易な施設で栽培を始められることから、生産希望者は増加傾向にある。

(乾しいたけ)

- ・主に山間地における露地の原木栽培によって生産されていたが、放射性物質汚染により減少し、近年は菌床栽培の乾しいたけ生産量が増加し、全体の生産量は微増している。

○流通・販売面の現状

- ・露地栽培原木しいたけは、出荷前検査や検査済みシールの貼付など、出荷管理して主に直売所で販売されている。
- ・施設栽培の原木・菌床しいたけは、農協出荷や直売所、地元のスーパーなどに出荷されている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・全国的にコナラ原木が不足しており、県内原木の使用再開に向けての取り組みが必須であるほか、他県産原木導入の継続的な支援が必要である。
- ・出荷再開に取り組む露地栽培原木しいたけ生産者は概ね解除が進み、生産マニュアル・出荷管理の徹底が求められる。

3 具体的振興策

○原木きのこ栽培における放射性物質対策作業マニュアルに基づく栽培管理の指導・徹底

○OGAP導入による生産管理意識の向上・安定生産推進

4 主な担い手(部会)等

○原木しいたけ(乾しいたけ担い手含む)

大崎市 3戸, 色麻町 1戸, 加美町 8戸, 涌谷町 2戸, 美里町 8戸

○菌床しいたけ(乾しいたけ担い手含む)

大崎市 10戸(法人2, 個人8), 加美町 17戸, 美里町 1戸(法人)

5 具体的取り組み内容

	項目	取り組み内容
生産・技術面	生産機械・施設の整備	・各種助成制度・農業・林業制度資金の活用
	県産原木使用再開への取組	・放射性物質に汚染されていない原木林の調査と継続的な原木の検査実施
	原木情報提供	・原木情報の収集・発信 ・県外産原木の供給支援
	生産管理意識の向上	・「原木きのこ栽培における放射性物質対策作業マニュアル」による栽培方法の徹底指導 ・生産工程管理(GAP)導入支援
流通・販売面	食の安全・安心の確保	・出荷制限解除後の出荷管理の徹底を指導 ・GAP認証取得支援
	消費拡大活動	・イベントなどでのPR活動
その他		・ ・ ・

えのきたけ「省力・低コスト化による収益力の強化と経営の安定」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
生産量 (t)	1172.0	1194.5	1209.6	1224.6	104%
産出額 (千万円)	34.2	34.6	34.8	35.0	102%

※出典「H30特用林産物生産統計調査」

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・県内最大の産地である加美町と第3位の大崎市とあわせ、県全体生産量の73%を占めている。
- ・価格の低迷により収益の確保が難しい状況が続いている。特に夏場の単価の下落により、夏期は減産している生産者が多い。
- ・加美町では生産性向上のため、菌床の培養を1箇所で行い、各生産施設に培養瓶を出荷している
- ・生育のバラつきから規格の不揃いによるロスが増え、生産量が微減している。
- ・生産施設の老朽化や、生産者の高齢化が進んでいる。

○流通・販売面の現状

- ・99%が農協へ出荷されている。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・生産工程の見える化・見直しによる規格の統一や、低コスト化が必要である。
- ・次期経営者の育成・確保と事業継承及び、老朽化している施設の整備が必要である。

3 具体的振興策

- 規格の統一化、生産工程管理などによる収量及び品質の向上
- えのきたけ産地のブランド化
- 事業承継ビジョン確立と経営の安定化
- 施設整備による生産性の向上とコスト削減

4 主な担い手(部会)等

- 大崎市 1戸、加美町 4戸(4法人)

5 具体的取り組み内容

項目		取り組み内容
生産・技術面	生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・規格の統一化 ・生産工程管理(GAP)導入支援
	低コスト化	<ul style="list-style-type: none"> ・共同包装施設の導入支援
	生産機械・施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成制度・農業・林業制度資金の活用
流通・販売面	ブランド化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP認証取得支援 ・イベントなどでのPR活動, 新しい料理方法の提案
その他	事業承継	<ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度の紹介 ・経営診断の実施

わさび「良質な商品の提供とブランド化の推進」

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3(計画)	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
生産量 (t)	2.8	3.0	3.1	3.1	110%
産出額 (千万円)	1.6	1.3	1.1	0.9	59%

※出典「H30特用林産物生産統計調査」

※単価の変動により、産出額は目標減となっている

2 現状と課題

○生産・経営面の現状

- ・加美町は県内最大の産地で、県全体の77%を占めており、近年2.8t前後で生産量が推移している。
- ・施設は加美町が所有し、公設民営により地元の民間会社が生産に取り組んでいる。

○流通・販売面の現状

- ・市場、飲食店、直売所、観光施設等に出荷している。

○生産・経営又は流通・販売面での課題等

- ・ボックス式の栽培方法をとっているが、施設の老朽化、わさび株の劣化が進んでおり、品質が低下している。
- ・生わさび以外の需要が少なく、栽培可能な面積の8割に減産している。

3 具体的振興策

○施設の整備・新品種導入による栽培技術の確立と品質改善

○多様な販売形態による実需者・消費者ニーズへの対応

○6次化による加工品開発など生わさび以外の需要増による生産量拡大

4 主な担い手(部会)等

- 加美町 1戸(水わさび)

5 具体的取り組み内容

項目	取り組み内容
生産・技術面 栽培技術の確立と品質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーと連携した栽培技術指導 ・補助事業を活用した新品種の導入, 施設の整備支援
流通・販売面 販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・食品関連産業との連携 ・加工品開発支援 ・イベントなどでのPR活動 ・実需者・消費者との交流と宣伝